

【File No. 18 | 岩村に残る紺屋 いわむらにのこるこんや (岩村町 269-1)】



土佐屋に残る染め工場の跡

かつて染め物業は、人々の暮らしを支える職業の一つとして盛んで、江戸時代は紺屋と呼ばれ、地名や屋号などから市内にも多く存在したと推定される。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている岩村町本通り地区で、資料館として公開されている土佐屋や、地域のにぎわいと交流施設として活用されている岩村上町まちなか交流館(吉岡屋)は、かつては染め物業を営む紺屋であった。

「土佐屋」では、江戸時代には主屋の通りに面した土間に染壺そめつぼが据えられ、職人が生糸や布を染めていたと考えられる。また敷地の一番奥には、明治末から大正初めごろに、古材を転用して建てられた染め工場が残っており、往時の生業の様子を垣間見ることができる。

ひとロメモ

11月29日(土)午後1時半から、岩村コミュニティセンターで染色史家吉岡幸雄氏(京都府)の「吉岡染」にまつわる講演と、ドキュメンタリー映画「紫」を上映。染色の歴史や岩村町の染め物業との関わりを知ることができる。参加協力費として500円が必要。

恵那写真館

私の大好きな1枚
(撮影地：上矢作町大船山)

上矢作町 熊谷 浩さん



大船山の頂上にそびえ立つ大きな風車は、見上げてもしよ遠くから眺めてもよし。上矢作町の山々の風景と一緒に実物もご覧いただけるとうれしいです。

皆さんの
大好きな風景を
気軽に応募くだ
さい！



青い空と白い風車

□応募方法 写真か画像データと①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④題名⑤写真の場所(町名)⑥お薦めの理由(70字以内)一を記入した用紙を持参するか郵送、電子メールで総合政策課広報広聴係へ提出する。

次号は
11月15日号
発行日は
11月14日(金)です

広報えな No.231

2014年(平成26年)

11月1日発行

発行 恵那市役所/編集 総合政策課広報広聴係
〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
☎(0573)26-2111/☎25-6150/(IP電話)050-5808-9521
<http://www.city.ena.lg.jp/> ☒ info@city.ena.lg.jp

『広報えな』11月1日号、1部当たりの印刷経費は約12.6円(税込み)です。



◀市ウェブサイト
(閲覧用QRコード)
あなたの知りたい情報を分かりやすく提供しています。



◀市メール配信サービス
(登録用QRコード)

音声告知放送の文字版ページ▶
(閲覧用QRコード)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。またインキは石油系ではなく、地球に優しい植物油を使用したもので印刷しています。

